



入学を祝して

新潟大学歯学部長 井上 誠

新潟大学歯学部歯学科、口腔生命福祉学科に入学の皆さん、保護者ならびにご家族の皆様、ご入学、誠におめでとうございます。

2020年から世界中に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のために皆さんの生活は大きく変わり、困難な環境の中で高校生活を送り、勉強をされて来たことと思います。世界を巻き込んだパンデミックの時を経て、2023年5月8日には感染症法上の位置づけが5類感染症に移行しました。これからは「個人の選択を尊重し、国民の自主的な取組をベースとした」対応が要求されるということです。人々はウィズコロナという、新たな日常とともに新たな価値観を見出し始めているともいえます。世界がCOVID-19からの出口を見出したことにも重なり、今回入学を果たした皆さんは、自らの大学生活と未来に改めて大いなる期待と希望をもって胸を膨らませていることと思います。

このたび入学した皆さんは、新潟大学歯学部の特色をどのようにイメージしていましたか。

オープンキャンパスやインターネットによる情報などを通して、「早期臨床実習」、「診療参加型臨床実習」、「短期留学制度」などを印象としていたことでしょうか。いずれも新潟大学歯学部が誇る学部教育の特色ではあるのですが、入学前にその内容について詳しく述べる人がいません。経験していないのですから。実際に、入学後の皆さんに聞いてみても、「入学案内で知っただけです」という声が聴かれました。こうしたやり取りを通して、昨年から話題となっている生成型AIのChatGPTのことが頭をよぎりました。

ChatGPTでは「大規模言語モデル」が基盤となっており、インターネット上に存在する大量のテキストから、もっともらしい文章を学習して書き出してくれます。しかし、この大規模言語モデルは、条件反射的な動作をしているに過ぎません。与えられた情報を自らが解釈した上で、自らの考えをもって主観的に出力するといったことはしないのです。「早期臨床実習」、「診療参加型臨床実習」、「短期留学制度」の何が素晴らしいのか、なぜそのオリジナリティを新潟大学が大切にしているのかをこれから体験してください。実際、私がChatGPTで新潟大学歯学部の特色を聞いたところ、「国際的な教育環境の中で留学生プログラムや国際交流プログラムを積極的に推進している」、「歯学研究の分野で優れた評判を持っており、最新の研究と技術を導入することで、学生は最新の知識と技術を学び、歯科医療の分野でリーダーシップを発揮する準備が出来る」、「臨床実習や病院での実務経験を重視しており、学生は実際の患者との接触を通じて臨床スキルを磨き、実践的な経験を積むことができる」、「地域社会に積極的に貢献し、地域の歯科医療ニーズに対応するプログラムやサービスを提供している」、「連携病院と協力して臨床実習を行っており、学生に実践的な経験を提供するとともに最新の診療設備や技術を活用できる」との回答を得ました。しかし最後に、「ただし、具体的な情報は変更される可能性があるため、最新情報を確認することをお勧めします」ともありました。情報があふれている今日の社会にこそ、自らの経験や周囲との関わりの中で見出した価値観を定めることが大切であり、このことはウィズコロナにおける「個人の選択と国民の自主的な取組」に通じるものがあると思って

います。

新潟大学歯学部は、「包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成」であり、「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。その中核をなすのが、Problem-based learning (PBL) という学習方法です。PBLでは教員は学習者の補助者にすぎず、「学習の主体は学生である」という概念で学習が進んでいきます。また、歯科医療・口腔保健医療教育の集大成である臨床実習は、新潟大学医歯学総合病院を学びの場として臨床実習を展開しています。ことに歯学科では、「診療参加型臨床実習」を展開しており、インストラクタの指導の下で、学生自らが検査、診断、治療を行う機会をもちます。繰り返し強調しておきたいのは、新潟大学歯学部の教育の主役は学生本人であるとい

うことです。

2023年の干支（えと）をご存じですか。兎年、と答えたあなた、それは正確には十二支のことです。干支という言葉は、古代中国より始まった十干（じっかん）と十二支を組み合わせた暦の数え方であり、2023年は「癸卯（みずのと）」にあたります。癸（みずのと）は、十干の最後（10番目）にあたり、大地を潤す恵みの水を表す言葉で物事の「終わり始まり」という意味をもちます。そして卯とはウサギのこと。癸卯である2023年は、COVID-19が収束に向かい、ウィズコロナ、ポストコロナに向かって、社会が、そして私たちが、兎が駆けるが如く飛躍する年となる、ということを示しているように感じます。皆さんの学生生活が充実し、4年後、6年後には笑って卒業式を迎えられるよう、学生自身が努力と精進をもとに飛躍し続けてほしいと願っています。





入学を祝して

医歯学総合病院副院長（歯科総括） 多部田 康 一

新潟大学歯学部歯学科・口腔生命福祉学科の新入生の皆さんへ

新潟大学歯学部へのご入学、心からお祝い申し上げます。皆さんは新型コロナウイルス感染症の影響による制約や困難を乗り越え、ここ新潟大学歯学部に通りました。その決意と忍耐力に敬意を表し、皆さんを歓迎いたします。

皆さんはこれから歯学部において、歯科医学、口腔保健医療・福祉について学び、そして将来、専門職業人として、またはその指導者や教育研究者などとして社会に貢献することが期待されています。そのためには、卒業と同時にライセンスを持つプロフェッショナルに成長するまでに、決められた年限内での知識、技術、態度における膨大な学びが必要です。新潟大学歯学部においては皆さんが効果的に学習できるようにカリキュラムが組まれており、年度ごとの単位を取得することでプロフェッショナルとなる準備を整えていきます。焦る必要はありません。しかし、卒業まで着実に学び続けることが必要です。自己管理と時間管理によって学習や課題の計画を立て、時間を効果的に使い、自分自身の生活を管理することが何よりも大切です。

皆さんがこれから学ぶ歯科医学は、専門的な知識と技術を身につけるだけでなく、人として、将

来の医療従事者としての成長も追求するものです。高度な診療技術と最新の医学知識は不可欠ですが、それだけでは足りません。質の高い医療を提供するためには、人としての豊かさ、思いやり、そしてコミュニケーション能力が欠かせません。そしてこれからの時代には、医療技術に加えて、社会や個々の患者さんとの関わりを通じて得られる情報を整理し、適切な決定を下す能力が求められます。それには、広い視野を持つこと、チームとして働く能力、そして何よりも他人の感情や視点を理解する共感力が必要です。皆さんが新潟大学歯学部で過ごす時間は、専門的な知識とスキルを得るのみでなく、自身の人間性を深めるための大切な時期でもあります。クラブ活動やボランティア活動、日常生活の中での人々との関わりを通じて、楽しみながら社会への理解を深めていく時間を大切にしてください。

新潟大学医歯学総合病院の理念は「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」です。本院において成長した皆さんと一緒に患者さんを診て、研修を行う日を心待ちにしています。皆さんの経験すべてが学びです。大学での学習を重んじながらも、色々なことにチャレンジし、楽しみながら充実した学生生活を送ってください。